

2000年12月15日

報道関係各位

日興ビーンズ証券が、投資信託の商品ラインアップ強化

～ オンライン証券業界初、スカダー・インベストメンツ投信の商品を販売開始 ～

日興ビーンズ証券株式会社（取締役社長：沼口秀一、本社：東京都中央区；以下「日興ビーンズ」）は、日本のオンライン証券業界としては初めて、スカダー・インベストメンツ投信株式会社（代表取締役社長：國田廣光、本社：東京都港区；以下「スカダー」）の運用する投資信託を12月18日（月）より追加ラインアップいたします。スカダーは、米国最古の投信運用会社であるスカダー・ケンパー・インベストメンツ社（以下「スカダー・ケンパー」）が100%出資する日本法人で、チューリッヒ・ファイナンシャル・サービス・グループの一員でもあります。

今回日興ビーンズが、「スカダー ジャパン ファンド」（設定1998年10月）の販売を開始する背景には、この投信がスカダー・ケンパーの運用する米国最古で最大規模の投信「ザ・ジャパン・ファンド」（設定1962年、邦貨換算運用資産約950億円）の運用手法を忠実に踏襲していること、日本においても投信評価機関であるモーニングスター社からファイブスター（ ）の評価を受ける などの高い運用能力とリスク管理能力を持つこと、などが挙げられます。 本年11月時点のモーニングスター参考レート。ファイブスターは最高の水準を表します。

このほか、日興アセットマネジメントやフィデリティ投信などの運用するテーマ型投信など、合わせて6本の質の高い投信を同時に追加し、合計106本のラインナップ（現在100本）と致します。これは業界トップクラスの本数ではありますが、あくまでも「量よりも質」を重視した日興ビーンズ独自の厳しい選別基準を今後も継続し、慎重にラインアップの増強を図るとともに、お客様により多くの選択肢をご提供してまいります。

添付資料をご参照下さい。

日興ビーンズではこれまで、お客様に投信をより深くご理解いただくための「投信 i-desk（投信アイ・デスク）」、オンライン専門証券最多の評価情報のご提供、外貨MMFの為替レートが事前にわかる仕組みなど、投信販売に鋭意努力してまいりました。また、ヴィンテージワインのプレゼントや手数料を最大90%還元する『投資信託ありがとうキャンペーン』を12月11日より実施するなど、今後ともお客様の満足度向上のために、より一層のサービス充実、および機能向上を図りたいと考えております。

日興ビーンズでは、ホームページ（<http://www.nikkobeans.co.jp/>）に投資信託に関する最新の情報を常に提供しております。また、商品選びについてのご質問をはじめとする、お客様からのご相談・ご質問には「投信 i-desk（アイ・デスク）」（フリーコール 00777-5410）にて受け付けております。

日興ビーンズ投信追加ラインアップ一覧

スカダージャパンファンド

分類 :日本株 一般型

設定 :1998年10月

運用会社 :スカダー・インベストメンツ投信株式会社

特徴 :

「自分の得意分野である個別銘柄選択に注力し、管理できないリスク(金利、為替等の予測)を極力避ける」これが当該ファンドの投資哲学の柱です。以下は運用方針です。

・日本の株式公開企業の中で2年から3年後の企業価値と現在の株価の乖離を大きいものを投資対象と考える。

・スタイル運用(グロース、バリュー)には囚われず、長期資産運用の中核商品となることを目指す。

・独自のリスク管理手法を用い、為替や金利等の管理できないリスクを最小限に押さえ、得意分野である個別銘柄選択により、ベンチマーク(東証株価指数)を常に上回るパフォーマンスを追求する。

日興クオンツ・アクティブ・ジャパン

分類 :日本株 一般型

設定 :2000年2月

運用会社 :日興アセットマネジメント株式会社

特徴 :

当該ファンドは、個別銘柄からの超過リターンを積上げるクオンツ運用により、TOPIXを上回る収益を目指します。この個別銘柄に内在する期待超過リターンの算出には、アナリストの企業収益予想データ等の「市場期待要素」と企業の財務内容等の「バリュー度要素」をもとに分析するパークレイズ日興グローバル・インベスターズ独自のコア・アルファ・モデルが採用され、分散投資による徹底したリスク管理も行なわれます。また、当該ファンドでは、日々の売買を月一回に集約したり、先物などを使わない必要最低限の売買によって売買コストの削減に努めているため、より高いパフォーマンスが期待できます。

日興バイオ&ヘルスケアファンド

分類 :日本株 テーマ型(ヘルスケア)

設定 :1984年3月

運用会社 :日興アセットマネジメント株式会社

特徴 :

当該ファンドはゲノム、バイオ、生命科学、医薬品、介護、健康産業などヘルスケアに関わる企業の株式に投資するテーマ型ファンドです。

なかでも近年より顕著になってきたバイオテクノロジーの発展は、主に米国におけるヒトゲノム解読によって医療、化学、電子、食品など多くの分野に影響を与えることが予想されます。又、今後高齢化社会が進展する中で、「介護サービス」を含むヘルスケアサービスの拡大が見込まれます。介護保険に民間セクターの参入が2000年4月に実施されたことは、この流れを一層促進するものとして注目されます。この2分野に関しては市場が十分に拡大しておらず、欧米で先行しているため、わが国においては今後伸びてくる分野と言えます。

フィデリティ・テクノロジーファンド

分類 :日本株・テーマ型 (テクノロジー)

設定 : 1999年11月

運用会社 : フィデリティ投信株式会社

特徴 :

当該ファンドは、テクノロジー関連の企業に投資します。技術進歩や技術改良につながる、またこれから恩恵を受ける可能性のある商品、サービス等の提供、利用あるいは開発に従事していると判断される企業 (テクノロジー関連企業)の株式を中心に投資します。国内のテクノロジー関連企業の株式を主要投資対象としますが、一部海外のテクノロジー関連企業の株式に投資することもあります。信託財産の長期的な成長を目指し、積極的な運用を行います。運用にあたっては、フィデリティグループのアナリストによる企業調査と、ファンドマネージャーによる「ボトム・アップ・アプローチ」による運用手法が活かされます。株式等の組入れ比率は原則として高くします。(資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合もあります。フィデリティ・グループとは、資本関係のない提携グループの FMR . Corp. 及び Fidelity International Limited とそれらの関連会社を意味します。)

日興グローバル・サステナビリティ・ファンドA (為替ヘッジなし)

日興グローバル・サステナビリティ・ファンドB (為替ヘッジあり)

分類 :国際株・テーマ型

設定 : 2000年11月

運用会社 : 日興アセットマネジメント株式会社

特徴 :

企業が今後、持続発展していくには経済合理性のみならず、地球規模での環境適合性、豊かな社会創生という役割、つまり社会適合性にも優れていなくてはなりません。サステナビリティとはこの持続発展性を意味し、当該ファンドは日本を含む世界各国のサステナビリティリーダーに投資を行ないます。サステナビリティリーダーの選定は、原則として世界有数のサステナビリティ専門調査会社であるスイスの「SAM (サム) 社」が選定した銘柄からなっています。SAM社は世界的に有名なダウ・ジョーンズ社と世界初の持続発展性から見た先進企業で構成される株価指数「ダウ・ジョーンズ・サステナビリティ・グループ・インデックス」を開発したことで知られています。社会との調和を企業の選定基準に加えた国際分散投資型の株式ファンドはわが国では初めてです。